

平成 27 年 11 月 6 日

メキシコ日本語教師会理事会

第 21 回メキシコ日本語教育シンポジウム開催のお知らせ

メキシコは約 7000 人とスペイン語圏では最大の日本語学習者数を抱えています。中南米(外務省区分による)でもブラジルに次ぐ第 2 の日本語教育実施国であり、同地域においての日本語教育において重要な位置を占めています。

現在、インターネットによる情報革命を中心とした世界のグローバル化の波の中、日本語教育の地域性と世界における一般性を繋ぐ試みの重要性は明らかでしょう。

また、メキシコは東アジアや米国とは違い、地理的、文化的に「遠い」印象が強い国の一つかもしれませんが、近年日本の自動車工場の進出により、以前より「近い」国になりつつあり、日本語教育の需要もこれまでにも増して高まっています。

例年、メキシコ日本語教師会は日本語教育シンポジウムを開催し、国内の日本語教師の教育能力向上を目的とした招聘講師による講義・ワークショップを中心に行ってまいりました。これまでのこうしたシンポジウムに加え、ここ数年において様々なテーマが会員の中から希望として挙げられております。そして何より、先に挙げたようなグローバル化した状況の中、メキシコの日本語教育も外に向かって開かれていく必要性を感じていました。

そこで、本年からこうした要望に応えられるよう、また新しく増え続ける会員の皆様と交流を深められるよう、メキシコ日本語教育シンポジウムでは一般発表の公募を行うことにしました。日本を初めとするメキシコ国外からの参加により、様々な立場からの見地を共有し、ネットワークを作って、一緒に今後の日本語教育を考えていきたいと思っています。そして、メキシコからも中南米、及び世界に日本語教育を発信して、国外からの参加者に何かを持って帰っていただけたらと思っています。

また、今回のシンポジウムでは、これまでのメキシコ日本語教師会の歴史を振り返り、これから会員の皆様とどのような教師会を目指していけるのかも考えていきたいと思っております。

今回のシンポジウムでは、会話教育に関係するテーマに限らず、広く日本語教育に関する実践、研究発表、ワークショップを一般募集しております。ぜひ、別添の要項を見てご応募いただければ、と思っております。情熱と文化とアミーゴの国、メキシコで皆さんとお会いすることを楽しみにしております。

記

日時:2016 年 3 月 4 日(金)・5 日(土)・6 日(日)

内容: メインテーマ「会話力の向上に向けて—その測定、評価、そして指導法—」

4 日 基調講演「会話ができるとは、そして、できないとは—会話能力の原点とその育成—」

鎌田修(南山大学人文学部日本文化学科教授)

「メキシコ日本語教師会の歴史を振り返る」(メキシコ日本語教師会)

5 日 ワークショップ、及び公募による実践報告・研究発表、メキシコ日本語教師会総会

6 日 ワークショップ、及び公募による実践報告・研究発表、パネルディスカッション

場所:メキシコシティ・日墨協会日本語教室

主催:メキシコ日本語教師会 Asociación Mexicana del Idioma Japonés, A. C. (AMIJ)

助成:国際交流基金

参加費:会員 = 100 ペソ(※ 別途入会費 500 ペソ) 非会員 = 700 ペソ